

前立腺がん、膀胱がん、小径腎細胞がんに対する ロボット支援手術を行っています。

アメリカでは手術用ロボット「ダヴィンチ」を使用したロボット支援手術が急速に普及しました。泌尿器科をはじめ、婦人科、一般外科、心臓外科、耳鼻科などで積極的にロボット支援手術が行われています。泌尿器科で最も行われている、前立腺がんに対する手術である「ロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術」は、近年は前立腺全摘除術の約80%以上を占めています。前立腺がんの治療方法のひとつである根治的前立腺摘除術は、従来は開創手術が行われていました。開創手術は以前より行われている方法ですが、傷の大きさが約10~15cmと大きく術後の痛みが強い、手術中の出血量が比較的多い、術後の尿失禁や勃起障害などの問題があります。

ロボット支援手術では、術者は遠近感のある立体の3次元画面を見ながら拡大した画面で手術を行います。またロボットの操作アームは非常に器用に動き、狭い空間での可動域が広いので、腹腔鏡の器具に比べより確実な手術操作が可能です。これらの特徴を生かして、より低侵襲の手術が可能となることが期待されます。

日本では、手術支援ロボット「ダヴィンチS」が2009年11月に医療用機器として薬事認可を得て、ロボット支援前立腺全摘除術は2012年4月に保険適応治療として承認され普及してきています。当院では2015年4月に、後継器である「ダヴィンチSi」を導入し、同年5月より治療を開始しています。2019年1月に300例に到達しました。

また、2018年4月に膀胱がんに対するロボット支援腹腔鏡下膀胱全摘除術が保険適応となり、当院でも同年6月より開始し、保険診療で施行が可能となっています。

腎細胞がんに対するロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術も2019年に開始しました。

当院では日本泌尿器内視鏡学会認定ロボット支援手術プロクターの指導下に手術を行っており、安全で確実な手術を心がけております。

詳しくは泌尿器科外来にお問い合わせください。

